

2023 年度静岡県立大学大学院 秋季入学式

2023 年 10 月 2 日月曜日

静岡県立大学学長 尾池和夫

静岡県立大学大学院博士後期課程にご入学の方々、まことにおめでとうございます。今回のご入学は、薬食生命科学総合学府薬食生命科学専攻、同じく環境科学専攻の方々です。静岡県立大学の役員、教職員を代表して皆さまをキャンパスに歓迎します。ご家族の皆さまにも、こころからお祝い申し上げます。

皆さんはこの大学で、それぞれに未来に思いをはせながら研究を始める方々です。静岡県は最高峰の富士山、駿河トラフの深い海、豊かな大地の里山と都市を持っています。そのような大地を知って大学の将来を考えるために、私は地球科学者として静岡を観察しながら仕事をしています。皆さんも、大学の研究室での実験などだけでなく、大学のキャンパスとその周辺を観察しながら、研究を進めていただきたいと思います。また、学長室に学生さんたちが時々来られるのですが、それも歓迎します。

先週金曜日に最終回を迎えたNHKの朝のドラマ「らんまん」では、論文博士の博士号を授与される場面がありました。それは1927年（昭和2年）のことでした。日本の博士の制度が生まれたのは1887年（明治20年）に公布された「学位令」によるものでした。法学博士、医学博士、工学博士、文学博士、理学博士の5種類の博士が設けられていました。今は博士一つになっています。さらに『牧野日本植物図鑑』が発表されたのは1940年（昭和15年）、博士が78歳の時でした。研究の集大成と言われている図鑑で、改訂を重ねながら現在も販売されています。この1940年は、私の生まれた年でもあります。

皆さんの目標は、研究成果をまとめて博士の学位を授与されることです。順調に研究が進めば皆さんの学位は課程博士となります。大学院在学中に、研究と学習は当然のことですが、それだけに限ることなく、大いに広い視野でさまざまな体験をしていただきたいと思います。大学に一番必要であり、なかなか実現していないということを1字で表してほしいと、私は静岡県出身の世界的な書家である杭迫柏樹さんをお願いして大書していただきました。それは「遊」という1字で、はばたき棟の1階に掲げてあります。私は本学の学生さんたちに、何歳になっても大いに「遊」の精神を大切にしていきたいと思います。

隣の静岡県立美術館では間もなく、10月17日から「大大名の名宝」という特別展が始まります。細川家に伝わる文化財が展示されます。それもぜひ見に行ってください。入学の記念に招待券を差し上げておきます。皆さんは学生証を提示して入館できます。また、静岡出身の映画監督、山本起也さんは今、静岡で映画を制作することを企画していま

す。先週土曜日には山本監督と本学の連携で特別講義が始まりました。そのような行事にもぜひ参加してください。

静岡市は今年、新静岡市が誕生して 20 周年を迎えました。その記念行事が 11 月 4 日土曜日に行われます。20 年前頃に生まれた若者たちによるパフォーマンスという趣旨で、本学の「羽衣つたえ隊」のメンバー 9 名による新作劇「羽衣」が上演されます。そのような静岡市内のさまざまな行事にも興味を持って参加してみたいと思います。

皆さんは、静岡県というすばらしい環境の中で、これからの研究生生活を愉しんでほしいと思います。専門の分野に限られた知識のみではなく、幅広い視野を持つ研究者としてあらゆる分野に対応できる人材としての博士号を取得して修了していただきたいと思います。在学の期間はあっという間に過ぎていきます。心身の健康に充分留意されて研究に取り組んでいただくように願って、私のお祝いの言葉といたします。大学院入学おめでとうございます。

ありがとうございました。